

令和4年度 事業計画書

自 令和4年4月 1日

至 令和5年3月31日

誓 願

人よ醒めよ醒めて愛に帰れ
愛なき人生は暗黒なり

共に祈りつつ

すべての人と親しめ

わが住む郷に

一人の争う者もなきまでに

人よ起てよ起ちて汗に帰れ

汗なき社会は墮落なり

共に誇りつつ

すべての人と働け

わが住む里に

一人の怠る者もなきまでに



公益
財団法人

修養団

SYD 活動と SDG s

SYD 活動のほとんどが SDG s の目標達成に通ずる

🌱 幸せの種まき献金/フィリピン支援・海外支援/震災ボランティア



🌱 自然体験キャンプ/家庭共育セミナー/各種講習会



十伊勢講習会

11 住み続けられるまちづくりを



十沖縄縄遺骨収集

16 平和と公正をすべての人に



令和４年度 基本方針

「事業の充実、組織の拡充」 見直し、やり直し“みんなでまこう！幸せの種”

昨年度は第５波、第６波と言われる新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大がおり、緊急事態宣言並びにまん延防止等重点措置が何度も延長されました。長引くコロナ禍の中、３密回避のため人流を抑え経済活動も自粛され、国民一人一人も感染防止に最大限の努力を余儀なくされました。しかし、国を挙げてのワクチン接種や医療分野をはじめ様々な事業分野で適切な感染対策も講じられ、感染拡大を抑え日常を取り戻すための努力や工夫がなされております。

そこで、感染の状況は予断を許さないところではありますが、今年度は２年あまり続いた活動自粛による事業の縮小、組織活動の萎縮を挽回するため、またコロナ禍により薄れた人と人とのふれ合いの大切さを取り戻すため、蓮沼門三初代主幹が訴えた《愛と汗の精神》をしっかりと見据え、感染対策を講じながらウィズコロナの時代に対応して各事業を見直し、やり直し、立て直しを図ってまいります。さらに、修養団の「総親和、総努力、総幸福」の明るい世界実現のための活動は、ＳＤＧｓが掲げる国際目標に相通ずることから、引き続きその目標達成に寄り添い事業を展開してまいります。

そして、全国の会員およびクラブ・連合会と連携をより深め、学校や諸団体・機関の協力を得ながら、各事業を積極的に開催し、「こんにちは！」という“ふれあいの種”、「どうぞ！」という“思いやりの種”、「ありがとう！」という“よろこびの種”をまく“幸せの種まき運動”を力強く推進してまいります。

I. 青少年活動

※子どもゆめ基金は申請中です。

日本の将来を担い未来を築く青少年が、健康な身体を養い豊かな感性と高い徳性を磨き、有為な青年に成長することを目的に、基本理念である“愛と汗の精神”に基づいた本団の活動と一致するSDGsの取組みに添って、自然体験・社会奉仕体験を中心とした青少年健全育成活動の充実を図る。愛と汗の実践活動として、フィリピン・ゴミ山などの貧困の中で暮らす子どもたちへの支援活動を継続して展開する。

1. 子ども自然体験活動

“愛と汗の精神”に基づいた子ども自然体験キャンプを全国的に開催し、大自然の中で障がい児を含む異年齢の仲間とともに野営による共同生活を通して、様々な課題や困難を乗り越え、自主性、協調性、感受性等を育てるなど、次代を担う青少年の心豊かな人間形成を図る。

尚、活動実施に際してはwithコロナの時代に対応しつつも感染症対策を徹底して行う。

(1) 夏期子ども自然体験キャンプ

ア. 「子ども自然体験キャンプ」《文部科学省後援・子どもゆめ基金助成活動》

期 日	8月～ <各3泊4日>
開 催 数	5会場（道南・桧原湖畔・瀬戸内海・鹿児島・沖縄） *道南は5名、桧原湖畔・沖縄キャンプは各10名の障がい児を募集（招待）
スタッフ等	各会場スタッフ10名、リーダー15～25名
対 象	小学1年生～中学3年生の児童・生徒
募集人員	各30～50名

イ. 伊勢青少年研修センター主催「子ども自然体験キャンプ」《文部科学省後援》

期 日	8月 <各3泊4日>
開 催 数	3会場（富士山・愛知・関西）
スタッフ等	各会場スタッフ10名、リーダー30～40名
対 象	小学2年生～中学3年生の児童・生徒
募集人員	各80名

ウ. 連合会等組織共催「子ども自然体験キャンプ」

期 日	7月下旬～8月 <各3泊4日>
開 催 数	4会場（いばらき、岐阜友愛、広島、北部九州）
スタッフ等	各会場スタッフ8～10名、リーダー20～30名
対 象	小学1年生～中学3年生の児童・生徒
募集人員	各30～50名

エ. キャンプ事前調査《子どもゆめ基金助成活動》

期 日	6～7月 <各2泊3日>
開 催 数	5会場
派遣講師	各1～2名

オ. 印刷物の作成

- ①「子ども自然体験キャンプ」リーフレットの作成《子どもゆめ基金助成活動》

部 数 20,000部

体 裁 A4版6頁、4色刷り

- ②「子ども自然体験キャンプ」報告書の作成

部 数 1,200部

体 裁 A4版、84頁

(2) 子どもわくわく自然体験キャンプ(招待)《文部科学省後援・子どもゆめ基金助成活動》

子どもゆめ基金より助成金を得て経済的に厳しい環境にある子どもたちを招待し、大自然の中で異年齢の仲間とともに野営による共同生活を行う。様々な課題や困難を乗り越え、自主性、協調性、感受性等を育てるなど、次代を担う青少年の心豊かな人間形成を図る。

期 日 8月10日(水)～12日(金) <2泊3日>

会 場 ばんだいふれあいぴあ(福島県)

スタッフ等 スタッフ8名、リーダー15名

対 象 小学1年生～中学3年生の児童・生徒

募集人数 30名

(3) 冬期子ども自然体験キャンプ

ア. 子ども自然体験スキーキャンプ

開 催 数 2回 <各4泊5日>

【①12月26日(月)～30日(金)、②令和5年3月26日(日)～30日(木)】

会 場 ばんだいふれあいぴあ、箕輪スキー場等(福島県)

スタッフ等 各回スキー指導員2名、炊事員2名、SYDスタッフ3名(事務担当者含む)、
リーダー 18名(高校生・大学生)

募集人員 各40名(小学1年生～中学3年生の児童・生徒)

イ. 報告書の作成

部 数 200部

体 裁 A4版、46頁

(4) 子どもWAKU×2ひろば《子どもゆめ基金助成活動》

リーダー研修会では、自然体験活動や社会奉仕体験活動を実践している高校生・大学生等の青年指導者が集い、専門家や実践者を講師に招き、さまざまな体験活動やその展開方法について学習し、新たな視点に立って週末体験活動を展開実践する。

ア. WAKU×2ボランティアリーダー研修会

開 催 数 全国15会場

期 間 通年 <各1日～1泊2日>

イ. 子どもWAKU×2ひろば

開 催 数 全国11会場

期 間 通年 <各1日～1泊2日>

(5) 夏期少年少女合宿講習会（青年会議所等との共催事業）

開催数 4回（7～8月）＜各2泊3日＞
会場 伊勢青少年研修センター（三重県）
対象 小学生
定員 各80名
共催団体 （一社）伊勢青年会議所、（公社）岸和田青年会議所、（一財）日本教育再生機構
大阪茨木支部、橿原ロータリークラブ

(6) 第24回40kmナイトウォークの集い

期 日 9月初旬 〈初日夕～2日目午前〉
会場 伊勢青少年研修センターほか（三重県）
対象 小学3年生以上の子ども・一般
定員 80名

2. 子どもボランティア推進活動

“愛と汗の精神”に根ざした様々なボランティア活動を実践することにより、人のため、社会のために行動することの素晴らしさや真の喜びを体感する。お互いに理解し合い、分かち合い、思いやる心や豊かな感性を磨き、心豊かな人間形成に寄与する。

(1) 幸せの種まきキャンペーン《文部科学省後援》

地域、学校（生徒会・ボランティア部）、PTA等と連携を図り、これまで実践しているフィリピン等での支援活動を紹介する。ストリートチルドレンやスカベンジャーなど「貧困と共に生きる子どもたち」の現状を理解することにより、ボランティア精神を涵養し、他者への思いやり、命の大切さ、親や周りの人への感謝など、青少年の豊かな心を育むことを目的として全国的に開催する。

ア. 幸せの種まきキャンペーン「出前講座・課外授業」

期 日 通年
開催数 全国30会場（オンライン含む）
実施組織 学校（生徒会、ボランティア部・JRC等のクラブ、学童保育等）、市町村教育委員会・公民館、PTA・子ども会など各種団体・グループ、SYD連合会等組織
派遣講師 各2～3名（SYD講師及びフィリピンでのボランティア経験者）
実施概要 ・参加者 各会場15名以上
・プログラム 90分（標準）ほか

イ. パンフレットの作成・配布

部 数 6,000部
体裁 A4版、8頁、4色刷り
配布先 5,000ヵ所

（２）青年ボランティアゼミナール《子どもゆめ基金助成活動》

開催数 8回 ＜各2時間＞
講師 各1名（国内外のボランティア経験者等に委嘱）
会場 オンライン（Zoom）、SYD会議室（オンラインを含む）
対象 全国の青年リーダー
募集人員 各30名程

３．SYD指導者の養成

自然体験や社会奉仕体験などのさまざまな体験活動を実践し、自ら活動の楽しみや喜びを体得するとともに、子どもたちを安全に導きながら体験活動を積極的に推進するための知識や技能を習得し、“愛と汗の精神”を日常的に実践するSYD指導者の養成に努める。

（１）全国青年アカデミーキャンプ in 福島《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

【新規】

全国から集った中高大学生等の青少年が異年齢の仲間とともに大自然の中でキャンプ（共同生活）を実施。自然の素晴らしさや厳しさを感じながら、自然体験活動を積極的に推進するための知識や技能を習得するとともに、国連が定めるSDGs（持続可能な開発目標）に添った学びの場やテーマについての協議を行う中で、他者を思いやる心や積極的に汗を流せる自主性、コミュニケーション能力などの次代を担う青少年の心豊かな人間形成を図る。

開催数 2回 第1回：7月26日（火）～30日（土） ＜4泊5日＞
第2回：令和5年3月31日（金）～4月4日（火） ＜4泊5日＞
会場 ばんだいふれあいぴあ（福島県）
スタッフ等 外部講師3名、SYDスタッフ5名
対象 全国の中学生・高校生・大学生等の青年等
募集人員 各25名

（２）ボランティア・アクション《文部科学省後援》【新規】

自然体験・福祉ボランティア活動の心構えや基本的技術を習得し、福祉施設や公共施設等での社会奉仕活動を実践することにより、社会奉仕体験活動の楽しみや喜びを体得するとともに、ボランティア精神を涵養し、地域で活躍する指導者としての資質の向上を図る。

開催数 6回 ＜1泊2日～2泊3日＞
開催地 キャンプ場や青少年施設等
スタッフ等 外部講師1名、SYDスタッフ2名
対象 全国（地域）の中学生・高校生・大学生等の青年等
募集人員 各20名

*報告書の作成

上記2事業の報告書を作成し、事業の成果を広く一般に広報する。

部数 600部
体裁 A4版、60頁

(3) SYD指導者資格認定制度

“愛と汗の精神”を理解し、自然体験活動や社会奉仕体験活動等を日常的に展開する指導者の養成を目的としたSYD指導者資格認定制度の運用と充実を図る。

4. 青年組織育成

“愛と汗の精神”に基づいた、自然体験・社会奉仕体験を年間を通して実践する青年部組織の育成・充実に努める。

(1) 青少年活動（キャンプ）担当会議の開催

期 日 5月3日（火・祝）～5日（木・祝）
会 場 ばんだいふれあいぴあ（福島県）
講 師 1名
スタッフ 3名
参加者 15名

(2) SYD講師の派遣と青年組織活動への助成

青年部組織の強化・拡大と活動の充実・活性化を図るため、SYD講師の派遣と組織活動への助成を行う。

ア. SYD講師の派遣

回 数 5～6回
期 間 各1日～3泊4日

イ. 青年組織活動への助成

5. 関係機関・団体との協力

青少年教育及び社会教育の関係機関及び諸団体との連携を図り協力し合い、青少年の健全育成ならびに社会教育に寄与する活動を展開する。

II. 国際交流

1. フィリピンとの交流事業

(1) 青年ボランティア・アクション in フィリピン（第20回）

《文部科学省後援・交流20回記念》

フィリピンケソン市パヤタスのゴミ山で働く子どもたち（スカベンジャー）やマニラ市のストリートチルドレン（路上で生活する子どもたち）を訪問し、ボランティア活動・交流活動・支援活動の実践をとおして友好と相互理解を促進する。このことにより、SDGsの目標である「貧困」や「飢餓」などについて深く学び、他者への思いやりや命の尊さ、またより良い社会のために行動する精神を培うなど、自ら生きる意味を模索し、国際協力の精神を涵養し、学校や地域で活動する青少年指導者を育成する。

期 日 8月23日（火）～29日（月） <6泊7日>
訪 問 地 マニラ市、ケソン市 等
スタッフ 2名
参加者 青少年20名（満15歳から25歳未満の青少年）
支援者3名（満25歳以上の支援者及び今後支援をしようとする人）

主な活動 マニラ市内のストリートチルドレンやパヤタスのスカベンジャー（ゴミ捨て場で働く子どもたち）とのふれあい活動や支援品や食事の提供などのボランティア活動等を行う。

2. ブラジルとの指導者交流事業

（1）指導者の招聘

ブラジル修養団の推薦する指導者及び青年リーダーを招聘し、伊勢講習会や子ども自然体験キャンプなどの参加・研修により、ブラジルで開催される少年少女講習会等で活躍する青少年指導者の養成を図る。

ア. 青年指導者の養成

期 日 7月中旬～8月上旬 <約30日間>

招 聘 者 青年リーダー2名（ブラジル修養団推薦者）

イ. 講師の養成

期 日 令和5年2月上旬～2月下旬 <約21日間>

招 聘 者 1名（ブラジル修養団推薦者）

（2）講師の派遣

ブラジル修養団の要請に応じて指導者を派遣し、日伯文化協会等と連携しながら開催される少年少女講習会や教育講演会及びブラジル修養団青年指導者研修会等に従事する。

期 日 令和5年1～2月 <約35日間>

派 遣 者 SYD講師1名

3. 関係機関・団体主催事業への派遣・受入協力

内閣府、国立青少年教育振興機構等が実施する青少年や指導者を対象とした国際交流派遣事業に積極的に参加者の推薦を行うとともに、国内における各種国際交流活動への指導者・青少年の参加を促進する。

Ⅲ. 講習会・講演活動

企業・団体の社員等または個人を対象に、“愛と汗”の精神を基本にした健全な価値観を形成し、より良い人格を研くことを目的に開催する。また、受託講習会・セミナーや講演会に講師を派遣し、“愛と汗”の精神の普及に努める。

また、新型コロナウイルス感染防止へ最大限に配慮し、安全対策に万全を期して実施する。

1. 伊勢講習会

（1）みがく講習会

期 日 4月～令和5年3月 <各3泊4日>

開 催 数 9回

定 員 各80名

(2) みがく特別講習会

期 日 7月及び令和5年2月～3月 <各1泊2日>
開 催 数 6回
定 員 各80名

(3) 特別講習会

ア. 神嘗祭特別講習会

期 日 ①10月15日(土)～17日(月) <2泊3日> 初穂曳き・神嘗祭コース
②10月16日(日)～17日(月) <1泊2日> 神嘗祭コース
定 員 ①+②で80名

イ. 初詣新春の集い

期 日 令和5年1月 <1泊2日>
定 員 80名

ウ. 内宮古殿地清掃奉仕の集い【新規】

期 日 4月～令和5年3月 <1泊2日>
開 催 数 4回
定 員 各80名

(4) 受託講習会

ア. 2泊3日コース

開 催 数 2回(5月、9月)
定 員 各80名

イ. 1泊2日コース

開 催 数 11回(通年)
定 員 各20～80名

(5) 一般講習会

開 催 数 11回(通年)
定 員 各30～80名

(6) 講演活動

一般企業・その他各種団体の依頼により講師を派遣する。

2. 関東・東北地区等講習会

(1) 新入社員セミナー

ビジネスマナーや挨拶訓練等を通して学生から社会人への意識変革を図るとともに、講話や体験学習により“愛と汗”の人づくりを目的として開催する。

期 日 4月12日(水)～14日(金) <2泊3日>
会 場 福島県下
定 員 30名

(2) リフレッシュセミナー

中堅社員等を対象として、ブラインドウォークや水行等の体験を通し、新たな「気付き」をうながすことで心身をリフレッシュさせ、日々の生活に一層の活力を生むことを目的として開催する。

期 日 令和5年2月上旬 <2泊3日>
会 場 福島県下
対 象 18歳以上
定 員 30名

3. 受託セミナー

多様な企業・団体等の人材育成の要望に応える修養団ならではのセミナーを企画・実施し、広く“愛と汗”の精神の普及に努める。

実施予定回数 40回

(1) ブラインド・ウォークセミナー

“思いやりの心”“信じ合う心”“感謝の心”の三つの心を体感し、より温もりのある心豊かな人間関係を築くことを目的としたセミナー。

コース：半日、1日

(2) パート社員セミナー

スーパーマーケット等のパートタイム社員を対象に、職場の人間関係をより円滑にする心のあり方や対人関係スキルの向上を目的としたセミナー。

コース：1日、1泊2日

(3) 新入社員セミナー

学生から社会人への意識変革を図るとともに、“愛と汗”の人づくりをねらいとしたセミナー。

コース：半日、1日、1泊2日、2泊3日

(4) 一般社員セミナー

1社単独による研修や職場リーダーの育成を目的としたセミナー。

コース：1日、1泊2日

4. 青少年・社会教育団体等への講師派遣・幹旋

委嘱講師の充実を図り、青少年団体をはじめ学校、諸団体、企業に積極的に働きかけ、講習会・家庭教育講座や人生講座への講師派遣や、レクリエーション、キャンプ等のプログラムを企画立案し、指導者派遣の一層の拡大を図る。

IV. 家庭教育活動

1. 家庭《共育》ひろば

“楽しい子育て” “幸せな家庭づくり” をコンセプトに「子どもたちには健やかに、心豊かに育ってほしい」と願う保護者や地域の大人へ、「講演会・セミナー形式」「ふれあい交流会形式（三世代、パパママ、親子などの交流イベント）」の形で子育てや家庭教育についての学習機会を提供する。有識者・専門家などによる質の高い教育を通じ、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。

また、Z o o mを活用したオンライン講座を実施し、参加者を広く募集することにより修養団運動、特に家庭教育活動の拡大を図る。

（1）家庭《共育》ひろば（会場使用型）

開催数 5会場
期 間 通年
参加者 各20～50名
講師 各1～2名

（2）Z o o mでオンライン家庭《共育》ひろば

開催数 2回
期 間 通年
定 員 各50名
講 師 各1名（外部講師）

V. 会員組織活動

1. 「幸せの種まき運動」の推進

会員および会員組織と連携を図り、さらに諸団体に呼びかけて、“愛と汗”を基本理念に下記事業を展開し、「幸せの種まき運動」を推進するとともに、SDG sのゴールとして掲げられている「平和と公正」などへの貢献を目指す。

（1）“愛と汗” 幸せの種まきセミナー

「すべての人の幸せと、平和で豊かな社会の実現」を目指し、“愛と汗”を基本とした修養団の理念を学び、幸せの種まき運動を実践し広げることを目的に実施する。修養団連合会・クラブを基本の実施団体とし、研修会方式を用いて各地で開催するとともに、各組織の要請によりボランティア活動なども取り入れる。また、会員組織の活性化や後継者育成、会員拡大を図る。

開催数 5会場（標準日程は10時～17時）
参加者 各30名程度
講 師 各2名（外部講師、SYD講師）

（2）Z o o mでオンライン“愛と汗” 幸せの種まき講演会

Z o o mを活用したオンライン講座、または講演会を実施し、これまで実施が困難であった組織や新規参加者を募ることで、地域における組織活動の再活性化と運動推進を促す。本団講師のほか、本年度は修養団の会員を講師として招聘し、活動者目線からの講話を取り入れることにより修養団運動の活性化の機会とする。

開催数 6回（本部講師5回、活動者1回）
期 間 通年
定 員 各50名
講 師 各1名（SYD講師）

(3) 第14回「チャリティー演芸会」 — ストリートチルドレン支援 —

開催日 6月24日(金)
演者 立川らく次他
会場 SYDホール(東京都)

(4) 「幸せの種まき祭り」 — ストリートチルドレン支援 —

開催日 11月
会場 SYDホール、1階広場など

(5) 第6回「東京ベルズ」チャリティコンサート — ストリートチルドレン支援 —

開催日 12月
会場 SYDホール(東京都)

2. 会員組織活動への支援と会員加入促進

会員組織がそれぞれの地域や職域で社会貢献活動(幸せの種まき)をすすめるために、運動推進会議を開催するほか講師派遣などの支援を行い、会員加入促進を図る。

(1) 第11回「全国修養団運動推進会議」

各クラブ・連合会の活動を活性化する上で、事業や日常活動の具体的展開について協議するとともに、各会員組織間の情報交換等を行う。今年度から修養団の創立記念日に合わせ実施する。

開催日 令和5年2月11日(土・祝)～12日(日)
会場 SYDホール(東京都)
参加者 主なクラブ・連合会の代表者またはそれに準ずる人 35名

(2) 修養団の創立記念日を祝う会

開催日 令和5年2月11日(土・祝)
会場 SYDホール(東京都)

(3) 活動活性化のための講師派遣

各クラブ・連合会が実施する事業(総会等含む)に対し、要望に応じて講師を派遣する。

また、全国をブロック分けし担当講師(キャンプなどかかわりのある地域)を指定し、各組織を定期的に訪問し小規模の研修会や講演会をおこなう。さらには電話やメールなどで連絡を取りながら組織の現状分析と諸問題解決を共に進め、活動の再活性化を図る。

派遣回数 35回程度(随時)
ブロック 北海道・東北／関東・甲信／中部・関西／中国・四国／九州・沖縄

(4) 活動助成金の支出

各クラブ・連合会が行う活動に助成金を交付し、組織活動の拡充と活性化を図る。

(5) 会員加入促進活動

ア. 本団主催セミナーおよび受託セミナー等の実施・開催に合わせて受講者に見本誌を配布し、加入促進を図る。

イ. 各連合会・クラブを通じ、未会員および家庭《共育》セミナー、愛汗実践塾等の事業参加者に対して加入促進を図る。

(6) 皇居勤労奉仕団（実施：伊勢青少年研修センター）

開催数 2回（5月・11月）〈各3泊4日〉

定員 各40名

(7) 『SYDかわらばん<最新活動情報>』の発行・配布

毎月20日（8月を除く）に各1,000～1,100部発行し、各会員組織等に配布する。
あわせて、ホームページでも過去1年分の全記事を掲載して広報する。

VI. 幸せの種まき献金活動

1年をとおして募金活動を行い、フィリピンをはじめとする海外の経済的に恵まれない子どもたちや国内外の大災害の被災者、福祉施設等を支援し、「貧困」「飢餓」など、喫緊の諸問題解決を目指した諸活動を推進する。

1. 募金活動

会員や諸事業参加者のみならず、機関誌やホームページによる広報活動で広く募金を呼びかけ、積極的に募金活動を展開する。また、活動報告書やフィリピンの学資支援を受けている子どもたちを紹介するパンフレットを作成配布し、この活動への理解者・協力者を広げる。

2. 支援活動

フィリピンの経済的に恵まれない子どもたちへの学資支援をはじめとする支援活動を継続して行うとともに、国内外の大災害被災者や福祉施設への支援も行う。支援先や支援方法については、「幸せの種まき献金」委員会で定期的に検討する。

VII. 出版・広報活動

1. 機関誌『向上』『愛』の発行

(1) 『向上』

自分を高めること、身近なところから“幸せの種”をまくことの大切さを実感し、行動に移すために役立つ記事を掲載する。各界著名人の随想、専門家による「より良く生きる」ことへのヒントや学びとなる内容のほか、修養団や会員組織による事業・活動を紹介し、広く興味をもってもらえる誌面とする。

(2) 『愛』

温かな人間関係づくり、子育てや暮らし、心豊かに生きるための参考となる記事のほか、青少年の自然体験活動やボランティア活動等をわかりやすく紹介して、特に女性や青少年に役立つ内容とする。

(3) 機関誌の積極的活用と広報

読者の高齢化等による発行部数の減少が予想される中、講習会受講者のみならず、「日々の力」および図書の購入者、「幸せの種まき献金」支援者など、修養団活動に対して理解をいただいている方々に対し機関誌（バックナンバー）を送付し、購読に対するお願いを進める。

合わせて、内容などが理解しやすいチラシの作成も進める。

2. 令和5年版「日々の力」の制作・販売

販売目標 12,500部（制作13,000部）

3. 教育図書の普及、教材の販売

『蓮沼門三の言葉 110』、『人生のことば 365日』などの人生書や教育図書、研修教材等の販売に努める。

VIII. 施設運営事業

1. 伊勢青少年研修センター

- ・みがく講習会、みがく特別講習会を事業の中心として運営する。
- ・他団体との共催による講習会、研修会事業を進める。
- ・地域の各団体との連携をさらに広げ、各事業を展開していく。
- ・ホームページやSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を通じて、センター主催事業等の広報活動および活動の報告に努める。
- ・講習会紹介冊子等を作成し、運動の推進を図る（A4サイズ10頁程度）
- ・各講習会、青少年育成事業の開催の際、各関係団体や新聞等メディアの協力を仰ぐ。

2. 修養団SYDビル・SYDホール

- ・セミナー、講演会や各種活動の拠点として一層の有効活用を図る。
- ・2階ホール及び16階会議室の利用を促進する。
- ・テナントに対し、快適なオフィス環境を提供するよう適性管理に努める。

3. ばんだいふれあいぴあ

- ・自然体験活動の拠点として、主催事業で利用するとともに諸団体の利用に供し、有効活用に努める。
- ・施設の整備を行い、利用環境の一層の向上を図る。

4. 関西会館

- ・賃貸スペースの適正管理に努める。

IX. 表彰等

1. 第17回SYDボランティア奨励賞

都道府県教育委員会、主要市町村教育委員会、キャンプ開催地や参加者のいる小・中学校、高校、大学を中心にSYDボランティア奨励賞・パンフレットを配布、応募を呼びかける。顕著な活動を顕彰することにより、ボランティア活動に対する意識を高揚し、活動への参加を促して青少年の健全育成に寄与する。

(1) SYDボランティア奨励賞贈呈式

贈呈式 令和5年2月11日（祝・土）
会場 SYDホール

(2) 募集パンフレットの製作・配布

体裁 A4版、2頁、4色刷
部数 18,000部
配布先 18,000ヵ所

2. 令和4年度修養団功労者表彰

修養団運動の発展に寄与した功績顕著と認められる個人ならびに団体を顕彰する。

X. 諸会議の開催

1. 理事会

期 日 5月・12月・令和5年3月（3回）
会 場 SYD会議室（東京）

2. 第12回評議員会

期 日 6月3日（金）
会 場 SYDホール（東京）

3. 後援会役員会

期 日 6月
会 場 SYD会議室（東京）